

いかづちじんじゃ

## 雷神社

**神社番号** 27 式内社  
亀卜神事 旧1月3日

**周辺の神社** 多久頭魂神社 (21) ほか

**アクセス** 厳原町豆酛(つつ)の西を流れる乱川横の小道を北上すると、板状の石でできた橋と小さな社殿があります。



### 周辺の雰囲気・環境など

豆酛は亀卜や赤米神事など独自の伝承・習俗に彩られた集落です。南端の豆酛崎は東シナ海に突き出した岬で、遊歩道が整備され、対馬海峡の広大なパノラマが眼前に広がります。

### 神社のプロフィール

亀の甲羅を用いる古いの起源は、約3000年前に滅亡した中国最古の王朝・殷(いん)とされ、現在でも旧暦の1月3日、雷神社で神事が行われています。神事の奏上の言葉から、俗にサンゾーローまつりとも呼ばれます。

ふとのりとじんじゃ

## 太祝詞神社

**神社番号** 56 式内社(名神大社)

**周辺の神社** 敷島神社 (55)

**アクセス** 県道24号線から美津島町加志(かし)集落に入り、川沿いの道を森の奥にむかっていると約2km進むと、右手に鳥居・社殿が見えてきます。



### 周辺の雰囲気・環境など

美津島町加志は、対馬の中央に広がる浅茅湾(あそうわん)の南西部に位置する農村です。

霊峰・白嶽の西麓にあり、集落からその秀麗な山容を拝むことができます。

加志浜では初春、海藻のアオサが手摘みで収穫され、対馬の風物詩のひとつとなっています。

### 神社のプロフィール

イカツオミおよびその祖とされる太祝詞神(アメノコヤネ)を祭る、加志集落の奥に鎮座する名神大社です。イカツオミは豆酛・阿連・加志に足跡を残しており、阿連・加志の宮司はその子孫とされる橘氏で、対馬卜部の本流とされています。